

情報を伝えたり、また、家庭での様子を聞いたりするなど、園と家庭とが連携をとり、一貫性をもった幼児への指導がとても重要なのです。

○幼稚園での保健指導教材

幼児の実態や興味関心を把握し、発達段階を考慮した保健指導の内容や教材づくりが必要です。一般には幼児向けの保健教材が少なく、子ども達の姿から健康課題を見つけ、手づくり人形や紙芝居を考えていくようにしています。また、発達段階をみても興味・関心が異なる子どもたちです。年齢に応じた教材・お話づくりを心がけています。紙芝居は、視覚的にも子どもには分かりやすく幼児の動機づけとして効果的な教材として活用しています。

子ども達は「先生！歯が抜けたよ。」「大人の歯が生えてきたんだよ。」「6歳臼歯がでてきたよ。」と、嬉しそうに話してくれます。この分かりやすい体の変化に、子ども達もとても関心をもっています。乳歯から永久歯に生え変わる大切な時期を迎えようとしている子どもたちが歯をみがく習慣をつけられ、子どもたちが自らやってみようと思うきっかけになり、子どもたちがわくわくするようなお話をつくってみようと思い、「とんでった は」の紙芝居をつくりました。

○「とんでった は」のポイント

子ども達が一番驚くところは、だいちゃんのはがすっぽーんととんでいってしまうところです。幼稚園で実践したときには、思わず口に手をあてている子もいました。

途中に、おおきな口をあけた絵がでてきます。そこでは、歯医者さんが歯のみがき方を教えてくれているように、お話をすすめられるようになっていきます。実践では、大きな歯ブラシをつくり、歯のみがき方を指導しました。物語の中に指導の部分を取り入れたことで、子ども達もよく話を聞いて、興味をもって、みがき方を覚えます。この紙芝居を使われる方が、子どもたちに伝えたい内容を考えて使ってみてください。

○「とんでった は」を子ども達といっしょに楽しんでください

とにかく、子ども達と楽しんでください。単に、歯みがきをしないと歯が嫌がって口の中からとんでいってしまうという教訓的な話で終わるのではなく、子どもたちにファンタジーを感じてほしいと思っています。その中で、子どもたちに伝えたいエッセンス（ここでは歯のみがき方）をすこし加えてください。

「とんでった は」が、子どもたちが何回も読みたくなるお話になってくれれば、とても幸せで、こんなに嬉しいことはありません。

2004年2月

奈良教育大学教育学部附属幼稚園
養護教諭 山口 智佳子

《参考文献》

幼稚園教育要領解説，文部省 フレーベル館 ，平成11年6月

健康教室 「平成15年度学校保健統計調査速報」，東山書房2004年3月号6-31

吉田啓一郎/西連寺愛憲 編集代表；新しい歯の保健指導の授業と展開，ぎょうせい

「幼児期における健康支援体制の確立に向けて」

厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者 山縣 然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授）

幼児期を地域から学校への移行期としてとらえると、そこにさまざまな問題が浮かび上がってきます。幼児期はたとえば事故の多発する時期ですが、その発生する場所は家庭から幼稚園・保育園へとつっていきます。地域では、母子保健の重点課題として事故予防に取り組むプログラムがあるのですが、それが幼稚園・保育園と上手な連携がとれているかということとそうでもない現実があります。地域からは幼稚園・保育園における健康支援がみえておらず、幼稚園・保育園からは地域での健康支援がみえていない。安定した親子関係のあり方、食育を中心とした生活習慣の確立、あるいは、感染症予防・予防接種に関しても、この移行期は大切な時期であるといえます。

このような状況において、今回わたしたちは本研究班の活動として、幼稚園における健康支援の担い手となる養護教諭の役割に着目し、幼稚園養護教諭と地域の保健師との連携確立を目的とした研修会を開催いたしました。その研修会において参加者のあいだで議論されたことは、子どものとらえ方の違いやプライバシーに関する考え方の違いなどでした。そのような認識の違いを認めたくて、親と子どもの健康を支援していくという共通の目的のもと、お互いがどのような役割を演じていけばよいのか、お互いがどのような連携をとりあえばよいのかが少しずつ明確になってきたと思います。幼児期における健康支援は、実はフロンティアでもあるのです。家庭にいる子ども、保育園に行く子ども、幼稚園に学ぶ子ども、そしてそれぞれの親・保護者・・・健やか親子21のもと、多様な幼児期のライフスタイルに適応した健康支援をきめこまかに展開していくために、幼稚園の養護教諭はその連携の要として存在意義を発揮していく重要な時期にきていると考えます。

「幼稚園養護教諭のちからと将来」

厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

分担研究者 松浦 賢長（福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座 教授）

幼稚園は学校です。幼稚園における健康支援の取り組みは学校保健の端緒となる重要なことからです。全国の幼稚園、その数は数万あれど、養護教諭の配置されている園はどれほどあるのか。本研究班における取り組みの最初の疑問でした。報告書にも示しますが、その配置率はわずか数%でした。保健室のない幼稚園もたくさんありました。保健室のない学校や養護教諭のいない学校、それが小学校や中学校だとしたら、保護者は安心して子どもを学校に通わせることができるでしょうか。考えさせられた現状でした。

その全国数百人の幼稚園養護教諭は、お互いに連携をとりあい（職種内連携）、子どもたちの健康と未来のために力をつくされているのだろうか、意欲はいかなるものだろうか。これが次の疑問でした。その意欲はもちろん高いレベルにあったのですが、全国的な連携はまだ確立されておらず、職務に関してさえその確立はまだこれからという状況にありました。では今何が必要か。それは幅広い連携、相互サポートシステムと幼稚園向けに作られた健康教育教材ということでした。

いまここに幼稚園向けに養護教諭が自身の手で作られた教材を、幅広い連携と相互サポートシステムを求めている幼稚園養護教諭の方々に還元することができます。みなさんはフロンティアに立っていたのです。これから子どもたちの未来のために、連携に教材開発に大いに活躍されることを期待しています。このたびは本研究班の調査研究等にご協力ありがとうございました。

— 作者紹介 —



さく：山口智佳子（やまぐち ちかこ）

1974年生まれ。

奈良教育大学卒業後、公立幼稚園で幼稚園教諭として3年間勤め、その後、奈良教育大学教育学部附属幼稚園にて養護教諭として勤務。現職。

幼児対象のオリジナルの保健教材づくりに意欲的に取り組んでいる。また、幼稚園における健康教育や養護教諭の職務について、日々実践を重ねながら研究をすすめている。



え：阪口有香（さかぐち ゆか）

1977年奈良生まれ。

奈良教育大学美術科在学中に、手づくり紙芝居・絵本を描き始める。

毎年、大阪府箕面市で行なわれる手づくり紙芝居コンクールでは、グランプリ賞をはじめ、様々な賞を受賞。紙芝居の作り手語り手として、時間さえあれば全国各地をとびまわっている。

— 発行 —

2004年3月

厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者：山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授

分担研究者：松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座 教授

幼稚園養護教諭における同職種内の連携ニーズに関する研究

石原知恵	兵庫教育大学学校教育学部附属幼稚園
山口智佳子	奈良教育大学教育学部附属幼稚園
小松原かおり	京都教育大学教育学部附属幼稚園
江寄和子	京都市立崇仁小学校
松浦賢長	福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

「全国国立大学附属幼稚園における保健室および保健コーナーの設置状況に関する研究」では幼稚園養護教諭の職務が確立されていないことが明らかになった。また「幼稚園における養護教諭の配置状況に関する全国基礎調査」によると、幼稚園における養護教諭の配置率はわずか数%であり、全国に点在していることが明らかになった。そこで、全国に点在する幼稚園養護教諭は、職務を確立していくにあたって同じ職種として全国的に連携していくことを望んでいるのかについてのニーズ調査を行った。その結果、幼稚園養護教諭を対象とした研修会・研究会や情報交換の機会が望まれていることが明らかになった。現在の研修制度では幼稚園養護教諭のニーズにあった研修が行われていないのが現状のようである。このことから幼稚園児（幼児）対象の保健指導の教材や職務を確立していくための研修会が必要だということが考察された。

I. 研究の目的

平成14年度におこなわれた「全国国立大学附属幼稚園における保健室及び保健コーナーの設置状況に関する研究」では、幼稚園養護教諭の職務が確立されていないことがわかった。幼稚園養護教諭の職務を確立していく上でどのようなニーズが必要かを調べるにあたり、本研究班大学教員からコンサルティングをうけ、調査研究をおこなうことにした。

II. コンサルティングを受けた事項

- 1) どの幼稚園に養護教諭が配置されているのか、その状況をまずは調査してから、そこで明らかになった対象者にニーズ調査を行う方針をアドバイスされた。

→幼稚園養護教諭の配置状況の把握

- 2) 幼稚園養護教諭における必要なニーズの仮説をたてることをアドバイスを受けた。

- ① 幼稚園養護教諭の職務内容
- ② 勤務形態
- ③ 情報収集の場
- ④ 得たい情報の内容
- ⑤ 研修会・研究会の機会

→幼稚園養護教諭が幼稚園養護教諭を知るために仮説をたてる。

- 3) プライバシーにかかわることは聞かないというアドバイスを受ける。
- 4) メールアドレスの把握（メーリングリストにつなげる）をするための設問を設けることをアドバイスされた。

III. 研究の方法

本研究班によって実施された「幼稚園における養護教諭の配置状況に関する全国基礎調査」で知りえた419園の養護教諭を対象に、質問紙郵送法にて調査を実施した。幼稚園養護教諭として、情報交換をできる場や研修の機会の有無、どのような情報交換や研修を望んでいるかなどについて質問をした（質問紙を添付した）。回収率は、51.8%（217人）であった。

IV. 考察

○「幼稚園養護教諭の養護教諭同士の研修・研究会や情報交換ができるような機会がありますか？」の質問に対して89.3%の人が「はい」と答えている。「幼稚園養護教諭として研修・研究会や情報交換ができるような機会がほしいですか？」の問いに対しては98.1%の人が「ほしい」と答えている。研修会や研究会の機会があるにもかかわらず研修会・研究会の機会を得たいと考え

ているということからすると、幼稚園養護教諭が望む研修内容が充実していないのではないかと思われた。

○「どのような研修・研究会や情報交換がしたいですか？」の問いに対する回答をみると、「保健指導について」が82.9%、「教材研究」が69.3%、「幼稚園養護教諭における養護教諭の職務内容について」が67.8%であった。幼稚園児（幼児）対象の保健指導や教材研究など日々の職務内容に関する研修や情報交換が望まれていると考えた。

○「ホームページを閲覧できる環境はありますか？」の質問に対して、52.4%の人が「環境があり、利用している」と答えていたが、36.3%の人は「環境があるが、利用していない」ということであった。健やか親子21をより充実させていくためにも、情報の利活用をすすめる環境づくりをアドバイスして必要があると考えられた。

○自由記述には、勤務形態や取得免許なども書かれており、幼稚園には「養護教諭」としてではなく、「保健職員」として保健関係の職務をおこなう職員が配置されていることや、「保健職員」は、免許もそれぞれで「養護教諭」ではなく「保健師」の免許で採用されていることもわかった。

IV. 結果

1. あなたが勤務している園は次のうちどれですか。

1. 国立	33人 (15.2%)
2. 公立	178人 (82.0%)
3. 私立	6人 (2.8%)

2. 幼稚園の養護教諭同士の、研修・研究会や情報交換ができるような機会はありますか。

	全体	国立	公立	私学
1. はい	191人 (89.3%)	28人 (90.3%)	161人 (91.0%)	2人 (33.3%)
2. いいえ	23人 (10.7%)	3人 (9.7%)	16人 (9.0%)	4人 (66.7%)

2 a. はいの場合、どんな機会がありますか。

	全体	国立	公立	私学
記入あり	187人 (89.5%)	27人 (96.4%)	158人 (90.3%)	2人 (33.3%)
記入なし	22人 (10.5%)	1人 (3.6%)	17人 (9.7%)	0人

3. 幼稚園の養護教諭として研修・研究会や情

報交換ができるような機会がほしいですか。

	全体	国立	公立	私学
1. ほしい	206人 (98.1%)	31人 (96.9%)	169人 (98.3%)	6人 (100%)
2. ほしくない	4人 (1.9%)	1人 (3.1%)	3人 (1.7%)	0人

3 a. ほしい場合、これからどのような研修や情報交換をしたいですか。(複数回答可)

	全体	国立	公立	私学
1. 幼稚園における養護教諭の職務内容について	139人 (67.8%)	28人 (93.3%)	107人 (63.3%)	4人 (66.7%)
2. 最近の幼児の発達について	124人 (60.5%)	23人 (76.7%)	98人 (58.0%)	3人 (50.0%)
3. 健康に関する情報について	128人 (62.4%)	19人 (63.3%)	105人 (62.1%)	4人 (66.7%)
4. 幼児の病気について	109人 (53.2%)	16人 (53.3%)	89人 (52.7%)	4人 (66.7%)
5. けがや病気の救急処置について	109人 (53.2%)	17人 (56.7%)	88人 (52.1%)	4人 (66.7%)
6. 保健指導について	170人 (82.9%)	23人 (76.7%)	144人 (85.2%)	3人 (50.0%)
7. 教材研究について	142人 (69.3%)	21人 (70.0%)	120人 (71.0%)	1人 (16.7%)
8. 他の教諭との連携について	73人 (35.6%)	20人 (66.7%)	52人 (30.8%)	1人 (16.7%)
9. 保護者との連携について	97人 (44.7%)	19人 (63.3%)	76人 (45.2%)	2人 (33.3%)
10. その他	15人 (7.4%)	3人 (10.0%)	11人 (6.6%)	1人 (16.7%)

3 b. ほしい場合、幼稚園の養護教諭同士の連携は、どの範囲でしたいですか。(○はひとつ)

	全体	国立	公立	私学
1. 都道府県単位	86人 (43.7%)	7人 (23.3%)	75人 (46.6%)	4人 (66.7%)
2. 地方単位	44人 (22.3%)	11人 (36.7%)	32人 (19.9%)	1人 (16.7%)
3. 全国単位	52人 (26.4%)	12人 (40.0%)	40人 (24.8%)	0人
4. その他	15人 (7.6%)	0人	14人 (8.7%)	1人 (16.7%)

4. 幼稚園の養護教諭として、これからどのような研修・研究会や情報交換ができる機会が必要だと考えますか。(複数回答可)

	全体	国立	公立	私学
1. 幼稚園の養護教諭対象の研修会	162人 (77.5%)	26人 (88.9%)	131人 (76.2%)	5人 (83.3%)
2. 幼稚園の養護教諭の仲間が集うサークル研究会	73人 (34.9%)	12人 (38.7%)	59人 (34.3%)	2人 (33.3%)
3. メールでの情報交換	58人 (27.8%)	14人 (45.2%)	42人 (24.4%)	2人 (33.3%)
4. 幼稚園の養護教諭のホームページや掲示板	98人 (46.9%)	19人 (61.3%)	76人 (44.2%)	3人 (50.0%)
5. その他	14人 (6.7%)	1人 (3.2%)	12人 (7.0%)	1人 (16.7%)

5. 電子メールアドレスをもっていますか。(複数回答可)

	全体	国立	公立	私学
1. 公的(職場)にアドレスがある	88人 (40.7%)	31人 (96.9%)	53人 (29.8%)	4人 (66.7%)
2. 私的(自宅)にアドレスがある	131人 (60.6%)	17人 (53.1%)	109人 (61.2%)	5人 (83.3%)
3. 携帯電話にアドレスがある	141人 (65.3%)	27人 (84.4%)	110人 (61.8%)	4人 (66.7%)
4. アドレスはもっていない	31人 (14.4%)	0人	30人 (16.9%)	1人 (16.7%)

6. ホームページを閲覧できる環境はありますか。そしてそれを利用していますか。(○はひとつ)

	全体	国立	公立	私学
1. 環境があり、利用している。	111人 (52.4%)	25人 (78.1%)	81人 (46.6%)	5人 (83.3%)
2. 環境があるが、利用していない。	77人 (36.3%)	7人 (21.2%)	70人 (40.2%)	0人
3. 環境はない。	24人 (11.3%)	0人	23人 (13.2%)	1人 (16.7%)

7. 幼稚園の養護教諭のホームページを作成していますか。

	全体	国立	公立	私学
1. 作成している	6人 (2.8%)	2人 (6.5%)	3人 (1.7%)	1人 (16.7%)
2. 作成していない	208人 (97.2%)	29人 (93.5%)	174人 (98.3%)	5人 (83.3%)

8. その他、どんなことでもご自由にお書きください。

	全体	国立	公立	私学
記入あり	117人 (53.9%)	17人 (51.5%)	94人 (52.8%)	6人 (100%)
記入なし	100人 (46.1%)	16人 (48.5%)	84人 (47.2%)	0人

(自由記述)

【国立】

- ・ わたしどもの幼稚園では来年度に養護教諭が配置されることになりました。(現在は非常勤講師です) ホームページは来年度以後に作成される予定です。
- ・ とにかく、同じ仕事をしている人とたくさんの情報交換がしたい。
- ・ 非常勤のため、余りお役に立てなくて申し訳ありません。
- ・ たぶん県内には一人しか幼稚園の養護教諭はいないと思います。執務上での悩み等相談するところがありません。さっそく立ち上げられたホームページをのぞいてみたいと思います。今後よろしく願います。
- ・ I県は、私の他に幼稚園専属の養護教諭は1名(県立の幼稚園)だけで幼児期の健康教育をどのように進めていくべきか日々模索しているというのが現状である。国立の幼稚園の養護教諭の集まりは年1回あるが何度も集まって研究会や情報交換をするのは時間的にも距離的にも難しい。「幼稚園ホームページ」を是非とも活用させていただきたいと思う。
- ・ お恥ずかしい話ですが、N県の幼稚園に勤務する養護教諭の実態もよく分からない状況です。赴任した時はよく分からなかったので近隣の先生に聞いたり、幼稚園訪問させていただき色々参考にさせていただきました。そのうち自分の方法で(私の場合は前任者がいま

せんでしたので) やっていきようになり研究することや研修の意欲が薄れているようです。同じ立場の先生方と意見交換できる場があるといいと思います。先生方の研究、調査には出来るだけ協力したいとおもっています。ホームページもみせていただきました。そのうち書き込みもしたいと思っていますが。

- ・ 幼稚園に今まで養護教諭がなぜ配置されなかったのか不思議である。
- ・ 幼稚園の養護教諭同士で意見交流する場を作ってもらえればうれしい。
- ・ 他校種や保健関係の業種の方たちとも意見交流するためにも同じ幼稚園養護教諭の同士で初めは連携し専門性を整理していきたい。
- ・ 子どもや保護者のためにもいい仕事がしたい。
- ・ 幼稚園の養護教諭に関する講演会などがあるとよいです。
- ・ 幼稚園に赴任して養護教諭の必要性をあらためて感じました。情報交換できるばができて嬉しいです。
- ・ 養護教諭の専門性についての研修は幼・小・中・高・養護学校において共通のもと校種による特殊性があるだろう。その両方を大切に研修したい。子どもの成長・発達を支援するという視点で。だからあまり幼稚園のみの研修に固執したくないと思う。例えば、文科省の中央研修(養護教諭対象)において幼稚園の分科会がもてるくらいにしたい。
- ・ E県国立附属幼稚園の養護教諭が定員化されました。ネットワークもなく保健指導の情報もなくそんなになく悩んでおりました。県下に3名いらっしゃいますが連絡方法などが分かれば教えていただきたいです。またこのような企画・運営を大変嬉しく思います。私にできる事がございましたらおっしゃってください。早速HP拝見いたしました。今後私たちの活動がさらに活発になるようご協力くだされば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。
- ・ 担任や副担任、管理職、保護者との関係に悩むことがよくあります。幼稚園では、養護教諭がいることが珍しく、やはり学校のように存在を認めてもらえないこともあります。「一緒に保育に携わるスタッフの一人である」と考えてもらいたいのですが…。基本的

に方針が違うので、つい受容や優しさが優先してしまう私の立場や、甘えを許さない先生方と食い違い、でも養護教諭は1人なので従わざる得ないという状況です。個人的にはスタッフは皆とても仲が良く一緒にいて楽しいメンバーなのですが、仕事となると付き合い方はとても難しく届くを感じる日々です。隣接の附属小の養護教諭とよく愚痴のいい合いをしています…。

- ・ とにかく人数が少なく新しい分野ですので、情報を交換したいです。県下4名(自身を含む)いるようですが連携がなく孤立しています。こういう研究は嬉しいです。
- ・ 県内の幼稚園には、他に養護教諭がいるところがなく研修等は幼稚園教諭と共に受けています。それももちろん勉強にはなりますが、幼稚園養護教諭の職務等について情報を得る機会がもっとあったらいいと思います。

【私立】

- ・ 幼稚園養護教諭について研究して下さるといことで、とても嬉しく思っています。0県内の私立幼稚園で養護教諭として働き8年目になります。本園でも初めての職種であり私立の園では養護教諭が全くない中での仕事だったので手探りの中子どもの健康の手伝いをしてきました。幼児期の子ども達と養護教諭としてかかわることの必要性を年々感じています。また何かお役に立てることがあればご協力させてもらいたいと思っています。
- ・ ホームページは、それほど頻繁には書き込んでいないのですが、子どもたちの風邪などが流行している時、入園時健康診断時期など家庭にお知らせしています。幼稚園で養護教諭として仕事をするのは始めてなので手探りの状態です。ホームページについても始めたばかりで、思うような内容にはなかなかできません。身近に同じ立場の先生がいたらとても心強いなと思います。
- ・ 幼児期は今後の発達成長の基盤になることを考えると非常に大切な時期だと思えます。以前勤務していた小、中学校では、いろいろ研修・研究がされているのに幼稚園ではその組織すらない(私の側に)ことで、とてもとま

どっています。せめて情報交換できる場があればと思っています。

- ・ 私は、看護婦採用で幼稚園・小学校・中学校・高校・短大・専門学校のある学園のなかにいます。その中の幼稚園と・小学校を担当しています。「健」東山書房の月刊誌で幼稚園にも養護教諭がいると最近知りました。0大附属幼稚園だったので、有名私立だからかなとみえました。幼稚園は補佐という形をとって15年ほどみてきましたが、年々かわる保護者の姿勢と幼児化する児童に驚いています。小学校・中学校では私立の保健室担当者の集まりがあり情報交換や研修が出来て日常に役立っています。
- ・ 幼稚園の養護教諭?!ということがある!!・・・驚いています。養護教諭の免許は小・中・高校の2級か1級免許と認識していました(知識不足ですみません)。私は学園の養護教諭として仕事をしています。実際に幼稚園・保育園・高校・専門学校を対応してします。研修については、中高の養護教諭会や都・私立健康について伺っています。幅広い情報を得るには「健」や「健康教室」という専門誌を活用しています。専門学校時々、幼・保・高については、毎月ほけんだよりを作成する上で「健」「健康教室」は大切な情報誌と思っています。欲しい情報として養護教諭の免許資格を知りたいです。調べてみますが資料がありましたら教えてください。

【公立】

- ・ 現在小学校の養護教諭をしています。来年度4月より現在の勤務校に幼稚園が入ってくる予定で養護教諭が兼務になるかどうかは正式にわかっていません。過去にも幼稚園に勤務した経験はないので現在は、わかりませんが仮に4月から兼務になったとしての要望として書かせていただきました。
- ・ 全国でも数少ない幼稚園養護教諭として情報の少なさや繁雑仕事内容(実務)に不安や不満を感じていました。今年度から3年保育として新たにスタートしたにも関わらず、養護教諭としての職務の他に歳入歳出等の事務もしなければなりません。理想と現実の間で自

分の資質も高められずに悩んでいます。全国の様々な先生方の情報をいただくことが心のよりどころになると思います。今回のアンケートを大変うれしく思います。ありがとうございます。

- ・ 小学校の養護教諭と兼務なので小学校で得る情報に幼稚園は、準じている。
- ・ 本市では月1回の定例の養護教諭部会の時には他校種別に実践交流の場もあり夏季には幼稚園の養護教諭だけで教材作りをするようにして自分達で色々と教材も作っています。このような環境を作るためには、他校種の先生方にも幼稚園の現場の様子を知ってもらう事が大切だと思います。幼稚園で今こんな事でこまっているという事は、小・中学校の先生方にもよく理解してもらえます。また、職場での他の教諭の方々との連携についても職種別実践交流の場で話合う事があります。1学期1~2回での同じ職種の先生方と話し合う場がある事は大切なことだと思います。(色々な悩み保健指導の実践をした後やする前に話し合うことはお互いにより刺激になっています。)幼稚園の養護教諭になった当時は何をしてよいのかわからない事はだらけでしたが今は子どもが最初に出会う身体のことを教えてくれる先生としてやっているという感じです。(以前に比べ保護者への対応や生活習慣の崩れ等など無力感があることもありますが。)
- ・ 昨年度やっと幼稚園に1台パソコンが導入されたばかりで、いつも管理職がつかっている。保健室にはなく小・中学校のように在駐しておられず雑用に終われ、保健だよりや子どもの記録落ちついた子どもや親への健康診断もできないほど忙しい毎日を過ごしている。小・中学校としての養護教諭の職務が確立されておらず、フリー的感觉であらゆる仕事をこなしている毎日である。
- ・ 以前、国立大の附属幼稚園に勤めていたことがあります。異動したのころは環境の違いにかなりとまどいました。幼稚園の養護教諭とは何だろう?と毎日のように悩みながらも、相談する相手は近くにおらずという状況でした。この調査が全国でご活躍中の幼稚園養護教諭の皆様にとってネットワークを深めるも

のとなりますよう期待しております。

- ・ 市幼研の養護教諭4人と担当の園長（他の部会とかけもち）の5人の部会なので、なかなか研究が深まらない。G県では他に幼稚園の養護教諭がないため、今では（10年ほど前までは）保育者の手伝いやそれに関わる雑用をさせられており保健指導などは後まわしになっていた。（養護教諭も若かったため）最近では養護教諭としての意見も言えるようになり、保健指導の中でも幼児期の性教育にとりこんでおり、ぜひ全国の幼稚園の養護教諭と情報交換したい。
- ・ 他の幼稚園の養護教諭さんはどのような職務内容なのか知りたいです（ちなみに私は幼稚園バスに乗ります。週2回）。
- ・ 幼稚園の養護教諭間の連携を図ることは必要でとても大切なことだと考えます。今までなかったのが不思議なくらいです。0市もやっと手がけたところです。それと同時に異校種にむけてアピールも必要ではないでしょうか。仲間（他市）同士で支えあうことは悩みや不満を分かち合うことだけではないはずです。異校種の養護教諭と交流を図る、研究会に積極的に参加するなど。（0市は恵まれていると思いますが）努力を続けています。本当に少しずつではありますが幼稚園養護教諭への理解は高まってきているのではないかと思います。今日この頃です。日々の仕事に追われる幼稚園現場ですが、明日からの教育活動に役立つ又意欲につながるような連携がとれるようになればいいなと思います。
- ・ 0県は他府県と違う点が多いように思われる。市の幼稚園は60園あり全国に養護教諭が配置されている。
- ・ 研修会に参加したいという気持ちはあるが、日々の仕事におわれなかなかいけないのが現状である。また自分がほしい情報の研修会が近くで行われる可能性が低く、つい行かないでいる。それより、幼稚園の養護教諭のホームページがあり、それに自分の悩みや情報を自分の使える時間に利用できる方がすごく実用的でありたい。
- ・ T市幼稚園の養護教諭の場合、2～3園兼務の状態が多忙、大きな行事（運動会、入園式、卒園式、始業式、終業式）は在籍の園に出て

あとの日は各担当園の行事に合わせて仕事を配合する。子どもとの関係はなかなかつきにくいですが、他の教諭の救急処置に関する意識は高く持ってくれる。4～6月の検診時は大変に忙しい状態。

- ・ これからはパソコンの時代なので勉強していきたいと思います。
- ・ 小・中の養護教諭と幼稚園の養護教諭では職務内容の違いすぎる。幼稚園の子ども達の生活そのものが基本的な生活習慣を身につけさせる事につながるがそんな職場のなかに専門性をいかした仕事をしていなければならない。それには職場の中で養護教諭を理解してもらわないとやっていけない。
- ・ 幼稚園の養護教諭としての研究・研修は現在勤務している研究会で月1回は実施できている。他市でどのような取り組みがされているか興味がある。他校種の養護教諭との連携も、もっと必要と思う（特に小学校）。
- ・ 幼稚園の養護教諭に配置されて、はじめは戸惑うことばかりでした。「健」「健康教室」はじめその他の専門書も幼稚園での実践の記事は少なく、当時はもっと情報があればと思っていました。少数派だけに情報交換などの機会が増えればいいと思います。
- ・ 雑務に終われ、養護教諭の職務が後回しとなりがち。養護教諭というより、手空きの教諭と見られている気がする。他校種の養護教諭なみに専門職として尊重されたい。
- ・ 幼稚園の養護教諭の位置付けがよくわかりません。他の先生方や保護者の認識のなさに驚くこともしばしばです。夢をもち養護教諭になりましたが幼稚園の配置は考えていませんでした。夢と現実のギャップにとまどうばかりです。でも私は幼稚園養護教諭にはきっと意義があると信じています。他の先生方ではなく子ども達にプラスになると信じています。今回このような調査やサイトができ少し力強さを感じます。仲間がいることに安心しました。楽しみにサイト見させていただきます。ぜひ続けてください。がんばってください。
- ・ K市においては幼稚園の養護教諭として、私の名前はありますが、その実態は名ばかりで実質の執務は時間給製で9:00～2:00だったと思います別養護の先生がしておられます。

したがって今回のアンケートも非常に答えにくくはつきりいつたいへん申しわけないのですが、幼稚園とは日常的には全くかかわっていないのが現状です。私がかかわっているのは入園前の健康診断と内科・眼科・歯科・耳鼻科の健康診断（小学校グラウンドを使うこともあり）運動会（救護は幼稚園の養護がされます）ぐらいです。このような現状において何故、幼稚園の先生の名前がK市の教職員名簿にあがらないのか（他の職種は時間制であがっているのがあります）私には不思議であり一体何をするのも私にはわからないまま来てしまっている現状に何ともいえないものを感じています。

- ・ K市では公立幼稚園養護教諭は小学校と兼務という形をとっている。そのため専任で勤務していない関係上職務上では、定期健康診断など一部に限られている。（通常は、保健職員として看護師が勤務）いつも保健指導等で迷う気持ちを持っている。
- ・ 特に学校から転勤してくると組織的には不安を感じると同時に、幼稚園教諭とばかりの研修をされていて本来の自分の研修されていなかったの（前任者が）初めて入った時にはこの先の中で生活しなければならないのかと転勤した事を後悔した。しかしこれではいけないと考え（発想の転換）まずは地域の学校保健会に加入できるよう働きかけ2年目（平成14年度）より入ることができ今まで一緒にやってきた養護教諭の先生方と交流できるようにした。そしてそれだけではまだ自分の本来の研修にならないので市内の小学校の先生達（養護教諭）の研修会に参加させてもらうようお願いし10月より参加する予定、小学校で課題となっている事などを話し合うことにより同じ教材を作り指導することで幼稚園の横だけが研修ではダメだと私は考えているので、地域の幼・小・中の養護教諭の連携がいて考えている毎日です。自分の研修は人に持って来てもらうのではなく、自分が進んでみつけ研修していくことだと思ふ。養護教諭の幼稚園の仕事の内容も先生達に理解されていなかった事も多くあった。学校でやっていたようなやり方を3年目にしてようやく軌道にのせられるようになった。また、

健康診断等の説明も幼稚園の子にはなかなか理解できない部分もあるので保護者に資料を出しPTA総会等で説明して協力をしてもらうよう自分の仕事えおしっかり知らせることもいると考えております。そうすることで養護教諭の仕事はこんなのだと自分から言わないと理解してもらえない。また、養護教諭は幼稚園だけに勤務している人がいるがそれでは世界が広がらないと思うので、小中学校へ転勤して色々な子どもを観る事もいると考えます。その点、私の場合はそれがあつたので同じ仲間に情報提供をしてもらえ助かっています。人脈作りも仕事の1つではないでしょうか？ また、全国的な情報があるようでしたら教えていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

- ・ はじめにお断りさせていただきますことがあります。私は養護教諭の免許をもち勤務していますが身分は「保健職員」という立場にあります。K市の公立幼稚園には囑託で保健職員として配属されているのです。それには、看護師や保健師の資格を持つ人もなれます。幼稚園の養護教諭は隣接する公立小学校の養護教諭が兼任していますが、幼稚園の保健業務はほとんど保健職員が行っているのが現状です。私は小学校の養護教諭の経験がありますが、幼稚園においてはほとんど情報が無く研修の場はとても少ないと思ひます。幼稚園に勤める保健職員同志の研修や情報交換の場は現在のところ全くありません。せめて、幼稚園の養護教諭の研修の場を知ることが出来れば幸いです。このような調査の結果が有効に活用されることを願っています。
- ・ 「幼稚園の養護教諭」は「小・中・高の養護教諭」では、仕事の内容がかなり違ひ最初はかなり戸惑いました。保健指導等いまだに手探りの部分が多いので、他の方はどのようにされているのか等、情報交換ができればより工夫したり職務内容の見直しができるよいのですが人数が少ないこともあつてなかなか難しいのが現実です。
- ・ なかなか幼稚園での養教による保健指導に関する情報を得る機会がないのでHPなどでどんどん情報を提供してほしいです。
- ・ まず、このような調査が行われているとを、

とてもうれしく思います。仮説を読ませていただき、まさに私たちが日々実感していることだと思いました。幼稚園における養護教諭は、同種間における連携を結びにくいことを職種における養護教諭の存在意義が共通理解されにくいということから、メンタルヘルス上の問題を抱えることも多いのではないかと思います。幼稚園の養護教諭ならではの必要な情報、職務の創造性などもっとネットワークを結び交流していける場が必要だと考えます。

- ・ 幼稚園間の交流も必要だと思いますが、幼・小・中の連携という点から（段階を踏んで子どもたちの健康を支えるということからも）幼稚園・小学校・中学校の養護教諭で情報交換も必要と思います。
- ・ 個人的には、小学校勤務の経験があり幼稚園にも慣れてきたところです。問題3に答えたように新しい情報が欲しいです。はじめは、大学の講師の方による情報提供→参加者の実態調査、実践園の報告などになるといいなあと思います。
- ・ 電子メールは、一人ではありません。夫にほとんど頼っています。仕事はワープロを使ってしています。
- ・ A市立A・B・C幼稚園の3園兼務で勤務しています。アンケート用紙を全園に送っていただいています。回答はこの用紙しか（1園分）返送しておりません。ご了承ください。
- ・ K市では、全園配置されているので、組織が整備されている方だと思います。K市養護教諭研究会の幼稚園部として位置づけられているので、研究・研修・講師講演もいっしょにやっています。（但し、転勤するので、ずっと幼稚園勤務の人は、殆どいません。また、助教諭 臨時任用の先生も多いのが実際のところです。）
- ・ 務めはじめて20年過ぎましたが、園の行事が多くなったためか、最近非常に忙しい毎日を送っています。公立幼稚園を地域に開かれたものにしていくための色々な行事を、（老人会・中学生・未就園等との交流会）が増えました。毎日何かの行事、又は行事に向けての準備をしています。行事におわれて子ども達じっくり遊べていないような気がします。

親や地域の顔色をみて保育が進んでいっているようです。

- ・ 10年以上幼稚園に勤務していますが勤務先により職務内容が左右される状態です。落ち着いて(?)仕事がしたい!と毎日思っています。
- ・ 保健指導の教材制作でとまどうこと多いので、そういった研修や小児期にかかりやすい感染症などについてももっと知りたい。もっともっと勉強をする機会があればいいと思います。A市は、2園で兼任で保健室もあります。もう少し幼稚園の養護教諭の職務が確立すればいいなと思います。
- ・ K市では、新採用の養護教諭がまず、幼稚園に配属される現状。幼稚園での職務は幼稚園教諭と同じような執務を求められる上に、保健関係執務をこなしていかななくてはならないため本来の養護教諭の職務ができていない部分があるように思う。私は、欠員補充という形での勤務なのですが、正規採用の養護教諭（幼稚園）は、ほとんどといっていいほど小学校への転勤を希望されている。
- ・ 私は、養護教諭の経験が無く初めての幼稚園での仕事のため、どのようなものが普通といえるのかがわからないのですが、養護教諭として救護や学校保健に専念できる状況ではとてもないように思う。他の校種の友人にきいたりすることがあるが、幼稚園は特別といえ、雑務がかなり多い。担任のない教諭がいないため、なにかと養護教諭にまかせてしまう。また、行事などの仕事は、全員で取り組むが、保健行事や保健に関することは、かなり無関心である。上に立つ管理職の養護教諭のとらえ方がまちがっていると感じる。今の私の立場では、雑務ばかりが多くとても精神的ストレスが多い。事務や雑務が多いのであれば、事務職員を雇うなど他の人材をあてにするべきではないと思う。そのため、今の状況であれば幼稚園に養護教諭が必要なのか疑問に思う。
- ・ 学級担任と違い各園1名あるので自分の力量にかかるとが大きい。年々いろんな面で「あれ?」と思うことが・・・。
- ・ 研究会が月1回なので、もっと回数をもてたらいいと思う。

- ・ A市は2園を1人で勤務しているため行事におわれている事務ももたされているので大変忙しい。14人中9名は本採用で他は1年間の臨時助教諭のため、なかなか続かない。
- ・ K市の幼稚園の養護教諭の職務内容やあつかいについてとても疑問を感じている。雑用やお茶くみ等はもちろんのこと日常の保育まで求められる。はっきりいって養護教諭の仕事は片手間といった感じで、何のための先生??と言われる。園長、主任の言う事が絶対でおかしいと思うことなど自分の意見を言えるような環境ではない。もう一度きちんと見直して体制をたてなおしてほしい。
- ・ A市は、28園あり14名の養護教諭が2園を掛けもちしています。本務園（月・火・水）兼務園（木・金）幼稚園は特に市によって勤務体制が異なると思うのでその中でどのように勤務を行っているか知りたいです。
- ・ 保健指導をしているのですが、どのように子どもたちに伝えていったらよいのかどんな教材を作ろうか・・・悩んでいます。他の先生方がどんなふうに指導しているのか実際に見てみたいと思っております。2園兼務していますので、子どもたちと毎日関わる事ができません。けが等をしたときに継続的にみることができず担任におまかせしています。小学校とは違う位置関係にある幼稚園の養護教諭、いろんなことに戸惑い毎日過ごしています。同じ悩みを持った人や養護教諭仲間に出会えると今よりもっとがんばれる気がします。
- ・ 現在N市の市立幼稚園に勤務しています。（職歴は7年目）職務の現状としては養護教諭としての仕事のほかに事務仕事（学校の事務職員がしているような仕事です。）があり、月末などは事務に追われ、職務に専念できないこともあります。研修会も市内であるときは参加しますが、小・中・高を対象にした内容が多く、幼児の健康に関する情報をなかなか得ることができません。今回HPをたちあげてくださってありがとうございます。情報交換の場ができ感謝しています。
- ・ N市は全園配置で市内の研修会などで他校種とも交流がありめぐまれているとおもいます。
- ・ 幼稚園の養護教諭は雑用係りにされる。保育中などに自分の仕事以外のことをしてと言われる。職務そのものを理解している教諭はほとんどいない。いつも悔しい思いばかりしています。保育者ではなくとも、しなければいけないのでしょうか？
- ・ メーリングリストなど入ったこともないのであまりしたことはないのですがしてみると情報交換の良い手段になるかもしれませんね。あまりたいした回答ができず申し訳ありませんでした。
- ・ 0市立の幼稚園（32園）には全園配置されています。（大小にかかわらず）しかし、委託という身分で一年ですので安定した職種だとはいえません（週33時間）。0市の養護教諭は養護職員と称し免許もバラバラです。
- ・ 0市では養護職員は全員嘱託職員の為、旅費の関係で出張などは著しく制限されているのでせっかく良い研修会等があっても遠隔地（0市外）では参加することができない。私は看護師の資格で勤務しているので養護教諭としての基本的なことについて学びたいと思う。ADHDを含め障害児に対する理解援助について学びたい。
- ・ 市内の養護教員が集まって2ヶ月から3ヶ月に1回園での状況や職務について話をする機械があるのはうれしいことだ。幼小連携があってもいいと思う。保健指導の内容等を知ることが出来る場があったらいいのになと思います。
- ・ 0市の幼稚園は32園あり、養護職員が1名配置されています。月1度は全体研修会やブロック研修会が行われ、各園の怪我状況、出席停止の人数の把握などを情報交換しています。怪我の状況などを聞くと「こんなことに気をつけたらいい」など同じ環境で働いているので参考になります。研修会は月1度しかありませんが、困ったことや分からないことがあれば電話などで連絡しあうなどお互い助け合っています。近くに同じ立場の先生がいるので心強いと個人的に安心しています。
- ・ 年々、園児が減少しているためか、養護のほかに先生のお手伝い、雑用係りとしての仕事も多いので養護としての専門性とは何か疑問に思うことがあります。
- ・ 小学校の養護教諭とは違い、養護職員として主に子どもの体、怪我の対応を中心とした仕

事をしており、怪我も幼い子どもである分、大きな怪我は少ない。その中で全職員とのつながりも深く保健室にとどまっている時間はほとんどなく常に子ども達とかかわっている状態である。園の中で保健に関しては1人なので「ほけんだより」等保護者向けの資料等が少なく毎回苦勞している。園児が相手なので、保健指導の仕方時間もやり方など難しい点が多い。

- ・ 市に32園の公立幼稚園があり、そこに1名の養護職員が配置されていますが嘱託職員の1年雇用という現状です。この仕事に対して専門性も感じ、必要性や保護者のニーズも大きい割に園や市は、私たちがどのように捉えているのだろうと疑問に思うこともしばしばあります。また同じ養護職員でも意識の捉えかたもまちまちでブロック別研修会では集まってもそれぞれの園の愚痴の言い合いになっていたりしゃべり場になっていたり。お互いを高めて勉強できる、刺激がもらえるのとは大違いでこんなもんかとあきらめてしまうことがあります。これが一番の問題なのかもしれません。でもそれでもお互いの園の様子などを教えてもらえるので普段一人で園で悩んでいることや重荷の軽減にはなります。毎年研修の重要性、必要性を雇用更新時においていますが難しいのが現状です。「健」の雑誌を個人で購入してこれだけが情報源です。私は看護職から転職して3年目ですが「これでよいのか」と思うことが一杯です。時々話せる同じブロックの先生と話を（時間外にメールなどで）疑問の解決や情報交換をしています。でもまだ研修会や各園一人配置だけでもマシかなと思っています。
- ・ かなり「思い」を書かせていただいています。ストレスがたまっているのでしょうか。今回このアンケートが届きまして、嬉しく感じています。（早く結果を（情報）を知りたいと思います。）実は、私は、県採用の養教ですが、この4月に人事交流で国立の幼稚園の養教に正式に採用されました。すでに、県で小幼稚園でしたが、職務については、とても心痛むことなども多く、保健行事も降園後実施など（＝担任がつかない）考えられないこともあり、あきれることやため息をつくことが

多いです。保健教材を使った指導については、必要性は先生方がわかっておられるようですが、養教がおこなうことに抵抗を示されている方がこの時代に余りにも多く驚きです。

（県では考えられませんね）職務内容については土台固めは必要と思われまます。また女性が多い分、妬み・そねみなど感じます。支えあいというか、人間関係コントロールもすこしずつかたちづくる必要を感じます。But市の幼稚園の先生方との交流は楽しく、子どもたちの笑顔について語り合っています。

- ・ 近年、幼稚園の養護教諭の役割として、保護者（母親）の子育て支援（不安の聞き役）の重要性を感じています。小中と違い、幼の養教は、母親と接する機会も多く（個人的にも）信頼関係も結びやすい立場にあります。母親が安定すると子どもも安定することも多いことから『子育て支援の視点からみて、幼の養教がどのような援助がおこなえるか』を研修していきたいと思っています。学校にスクールカウンセラーが配置されているように幼稚園にも母親向けのスクールカウンセラーが必要でないかと思う今日この頃です。
- ・ 私の町では、町養護部会で小中学校との情報交換や交流させていただく場はありますが、幼稚園の養護教諭で交流する場、機会は一切ありません。ですから、悩み、不安があっても相談する場、情報をもらえる場がないのが現状です。研修会もありませんし、小学校のものを参考にしながら、自分で考えるしかありませんので「こんな指導でいいのかな？」と不安に思うこともあります。県職員と町職員ということで、研修会に参加できないということもあり、壁を感じることもあります。（仕方ないのですが…）幼稚園の養護教諭が連携できる場が、ぜひできることを願っています。
- ・ なかなか交流のない幼稚園の養護教諭仲間ががんばっておられるのをみて、元気がでます。大きな市採用の養護教諭の場合は、交流や異動があるでしょうが、小さな町採用の養護教諭の場合は、町の幼稚園一つに1人の採用になり、新採から退職するまで同じ職場で過ごすこととなります。近隣の市町村に幼稚園養護教諭がおられても他町となると、幼稚園の

考え方の相違により、幼稚園を中心とした養護教諭の情報交換する機会は残念ながらもてていません。

- 他の教諭も養護教諭も一つの職場で異動も交流の場もないということは、ものの見方、考え方がとても狭くなってしまふことが、小さな町の幼稚園の課題だと思います。そこをなんとかしたい。今模索中です。
- 幼稚園の養護教諭が配置されている園は比較的少ないと思う中、アンケート実施大変苦労されていることと思います。
- 合併（市町村）により、幼稚園の養教がいなくなるのではという不安でいっぱいです。養教の仕事は小中高大だけでなく、幼稚園にも必要ということを数多くの方々に広めて頂きたいと思います。法で定められている部分があるのでむずかしいとは思いますが…。
- 幼稚園への養護教諭の配置は義務化されていないため本園では諸健診及び園外行事のみに配置される嘱託職員である。研修の必要性は感じているが、それ以前に養護教諭の制度化が急務と思っています。
- T市の幼稚園には12名の養護教諭がいます。1名市教育委員会の方で保健の仕事をしています。16園のうち未配置園にまわっていったりもします。健康教育部会を毎月1回開いて年間テーマを決め研修を深めたり、今、園でのいろいろなできごとこまっていること、していること等、情報交換の場にしています。小中学校の先生たちと同じ研修会にも参加させてもらっています。
- 特にありません。養護職員として2年目の勤務のため、まだまだわかりません。
- 当市（T市）では、10名の養護教諭が幼稚園に配置されており、今の所大変恵まれています。また、この10名で何とか時間を取って研修会を持っているのですが、H17年度には市町村合併もあり、私、養護教諭はどんな立場にあなるのか分かりません。合併により広範囲になってしまうと、今まで研修する時間を取れていたものも取れなくなったり、悩みも多くなるのではないかと、不安で一杯です。そのためにも、いろいろなところから、少しでも多くの情報等が入ってくることを望んでおります。また、研修もどんどん参加したい

と思います。

- 養護教諭園の養護教諭は、小中にくらべて配置されていないので、できるだけ配置してもらえようになればと思います。市町村合併で養教がいる所もなくなる可能性が出てきた。
- 近年、幼児の心身の健康にも色々な変化が見られるようになってきました。先天性の疾患を持つ子どもも増加し、また、精神面でもいろいろな問題をかかえる幼児が増加し、保護者からも、いろいろな健康相談を受けるようになりました。幼稚園の養護教諭だからできること、しなければならないことなど、多々あります。また、幼稚園では担任でなければならないこと、養護教諭でなければならないこととそれぞれがその立場で考え、意見交換し最良の対処方法を園全体として考えていく体制づくりが求められています。養護教諭としての力量をあげていくためには、同職種間の連携が必要だと考えます。できれば、幼稚園の養護教諭としての大きい範囲での研修や情報交換をする機会が必要だと考えます。
- 結局幼稚園における養教の役割は、雑務が多く、専門性を発揮するための時間と余裕がなく、園においてもそれは求められていないように思います。たとえば、運動会では救護のみに徹することはできず、放送、補助、準備、プログラム作りなど、全くといっていいほど、ケガをしても対応してあげられない状況です。だから、やはり専門性をいかすために府や県の採用を受けて小中高に行きたがる養教は多いです。特にY市は若い20代の正規の養教採用はずっとなくて、若い人はみな養護助教諭という点からも、幼稚園での養教の立場の悪さを感じます。
- 研究会はありますが、職場にはあまりいいように思われていないようです。保育時間終了後ですが、園の仕事が（全体でのこと）できなかったり、旅費を他の教諭より使いすぎではないかという声があり、管理職にはあまり研究会のための出張はいいように思われていないようです。研究会をもつには周囲との輪も図りながら…難しい点があることを感じます。ホームページやメールで意見交換がよいと個人的には思いつつあります。
- 当市は、一園に一名ずつ養教（臨時講師等含

む)が配置されているので恵まれた環境だと感じています。幼児期だからこそ健康に関する専門職が必要なのではと考えています。私自身まだまだ勉強不足ですが「やはり幼稚園に養教がいてよかった」と子ども、保護者、教職員など周囲の人々みんなに思ってもらえるように務めたいと思っています。

- ・ A市立幼稚園養護教諭は3園兼務です。アンケート3園に送っていただきましたが、1通だけ送らせていただきます。
- ・ 養護教諭はあいまいな立場にあるので、だからこそ専門性が問われると思う。大げさかもしれないが養護教諭としてのアイデンティティーをもつことが大事です。
- ・ 事務や多くの雑務(T E L, 接客その他)など専門外の仕事が多く、視力検査をしても途中で何度も中断されるのが現状です。そんな中、幼稚園の養護教諭の専門性が強く要求されています。(夏休みなどに)同職種間で研修や情報交換をする機会がもっとほしいです。
- ・ 幼稚園には幼稚園の養護教諭の職務内容があると考えています。今一番考えている事は、食教育の面です。保育所には栄養士がおり、バランスの取れた食事—それがたとえ1日1回きりであろうと—体験できると思うのです。しかし、幼稚園で弁当が主であり、園児の食事内容は年々と偏ったものとなってきています。幼稚園だけが、具体的な指導がされずエアポケットのようになっています。何とか指導を行なっていきたい。その前に自分自身の研修を深めたいと考えています。保育所の看護師さん達には全国的組織があるようです。幼稚園にもぜひ全国的な交流の場が欲しいとおもいます。今の子ども達の状況は比較的経済的に豊かな子ども達でも良い状態とは思えません。私たちの専門性は必ず必要であり、大事であると信じています。
- ・ 幼稚園における養護教諭は園児への対応がベースになるのはもちろんであるが、保護者にどう支援していけるのかが重要であると考えている。「この子ねつが8度あるのですが、どうしても行きたいというのでつれてきました。」というようなケースが多くなってきている。子どもをしっかりみつめて対応してもら

えるようにと日々心がけている。それには私自身カウンセリングの研修などを受けることでお母さん達の相談にも対応していけるように努めている。N市の幼稚園の養護教諭は市の予算経理も分担しなければならない。人数の少ない職員組織なのでしかたがないと思うが、そのあたり条件的に色々な問題が全国的には多いのではないか(2園勤務、若い時に何年か勤務しその後小学校へ等)

- ・ 養護教諭同士の研修会も必要だと思いますが、いろいろな分野の方の情報や交流の場があればいいですね。
- ・ K市は、養護教諭の新採用者(近年は毎年5人程度)を有無を言わず幼稚園にまわしているのが現状です。よってどうしても若く経験の浅い者が中心となり、現場でも日々手さぐりの状態です。幸い毎月“部会”という機会があり、他の養護教諭と情報交換や研修をもててはいますが、十分とはいえません。また、他校種についての知識がなく「幼稚園」というある意味特殊な世界とまどいつつ毎日を送っている者も少なくありません。他府県や他市町村の実態について教えていただきたいです。
- ・ 幼稚園の養護教諭は全国的には少なく(はっきりにした数はつかんでいますが)西宮、阪神間では仲間は多く、研修の機会も多いのだなあと感じました。私たちの先輩(幼)がはじめに自主的な会にも(小児科医との…)小中の仲間、幼の担任教諭も参加しています。
- ・ N市・・・現在3園を1名の養護教諭が勤務している状態です。
- ・ N市以外の市とも、実践交流をして、様々なアイデアをぬすむ(?)機会がほしいです。

5. 電子メールアドレスをもちえていますか。(複数回答可)

1. 公的(職場)にアドレスがある
2. 私的(自宅)にアドレスがある
3. 携帯電話にアドレスがある
4. アドレスはもっていない

6. ホームページを閲覧できる環境はありますか。そしてそれを利用していますか。(○はひとつ)

1. 環境があり、利用している。
2. 環境があるが、利用していない。→その理由()
3. 環境はない。

7. 幼稚園の養護教諭のホームページを作成していますか。

1. 作成している →ホームページURL(http://)
2. 作成していない

8. その他、どんなことでもご自由にお書きください。

(Empty rounded rectangular box for free text input)

ご協力ありがとうございました。

なお、ご回答いただきました方には、調査結果をお送りしたいと思います。差し支えなければ郵送先をお書きください。また、メーリングリストを作成し、この調査の情報もお送りしますので、差し支えなければメールアドレスもお書きください

住所:	〒	—
氏名:		
メールアドレス		@

幼稚園養護教諭の連携確立に向けたホームページ運営・利用状況に関する研究

石原知恵 兵庫教育大学学校教育学部附属幼稚園
山口智佳子 奈良教育大学教育学部附属幼稚園
小松原かおり 京都教育大学教育学部附属幼稚園
松浦賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

幼稚園養護教諭の同職種内連携をめざしたホームページを開設し、その運営・利用状況を把握した。掲示板での情報交換を中心として、その他、研修会の案内など各コンテンツの内容が少しずつ充実されていった。ホームページのコンテンツの中では、掲示板が比較的多く利用されていることがわかった。また、アクセス数の月別の推移としては、10月末にホームページの存在を知らせたことにより11月中旬よりホームページのトップページへのアクセス数が伸び始めた。また、保健関係雑誌より本ホームページ紹介により更にアクセス数が伸びた。以上より、ホームページの利用が活発化してきていることが推測された。利用者によりよいホームページになるよう、そしてそれが同職種内連携に有機的に結びつくよう、利用状況の把握をページごとにする必要があると考えられた。

I. 研究の目的

幼稚園養護教諭に関するホームページはいままで存在しなかった。幼稚園養護教諭の同職種内連携をはかるために、まず全国の幼稚園養護教諭と情報公開や情報交換、意見交流の場をつくることのできないかと考え、ホームページを開設することとなった。今後のより有機的な連携の基礎とするため、その運営・利用状況に関する研究をおこなった。

II. 研究の方法

1. ホームページの運営状況

無料ホームページを利用した。パソコンやインターネットの利用環境が幼稚園にない場合があることを考慮して、携帯電話からもアクセスできるようにした。ホームページの更新については、更新履歴及び新着情報、掲示板に記録した。

2. ホームページの利用状況

利用状況を把握するための指標として、アクセス数を把握するためにカウンターを整備してしている。記録内容は日時毎のアクセス数である。本来であれば、各コンテンツにカウンターを設置すべきであったが、ホームページ作成上、アクセス数全体しか把握することのできないシステムであったため、細かい利用状況を把握することがで

きなかった。そのため、利用者のニーズに合ったホームページが運営できたかどうか把握することが困難であった。この点は、今後の課題の一つである。

III. 結果及び考察

1. 健やか親子21ホームページの運営・利用状況

図1に幼稚園養護教諭のホームページ「yoyo project」のトップページへのアクセス数の推移を示した。ホームページのトップページへのアクセス数は10月のホームページ開設以来、1,600件に達した。

本ホームページの存在を知ってもらうため、保健関係雑誌の日本学校保健研修社発行雑誌「健」2004年1月号に本ホームページの紹介を掲載した（図2：月刊「健」，日本学校保健研修社，2004年1月号）。

この結果、雑誌発行後の12月12日にアクセス数が増え、ホームページの存在を知らせるよいきっかけとなった。

また、掲示板では同職種間での意見交流以外にも他職種の方とも意見交流をすることができている。ホームページ開設当初から本研究班大学教員（コンサルタント）には掲示板に客観的かつ専門的な立場で意見を投稿してもらった。投稿者から好評を得ている。

図1. トップページへのアクセス数

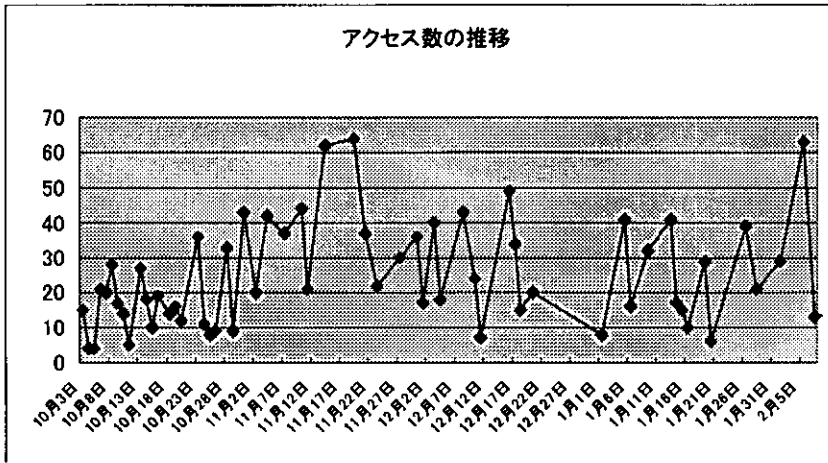
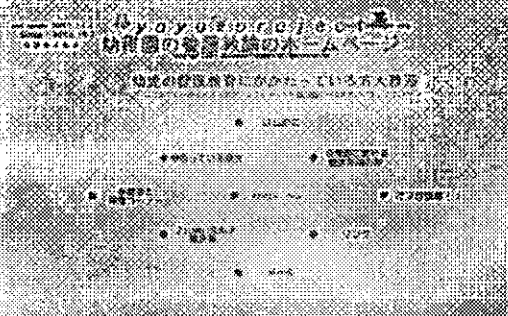


図2. 専門誌「健」に紹介されたホームページ

ようこそ「yoyoproject 幼稚園の養護教諭のホームページ」へ!



<http://www.ednet.ne.jp/yoyoproject-2003/>

昨年、幼児をとりまく環境の変化が、幼児の心身の健康にも大きく影響していると言われています。また、子育てをはじめたばかりの保護者の中にも子育て不安を抱えている人は少なくありません。そのような中、幼稚園の養護教諭には、子ども時代の子育てにおける新しい課題に対応できる支援者として、今後さらに重要な役割が求められていると考えます。その際には、他職種との連携、地域との連携が求められるのはいうまでもありませんが、まずは幼稚園養護教諭という閉鎖組織における連携が必要不可欠であると私たちは分析しています。

私たちはそこで、「全国の幼稚園養護教諭のホームページ管理・研究協力者 山口 智佳子（奈良教育大学教育学部附属幼稚園 養護教諭）」

先生方は、その専門性に関して得意ながらか、専門家としての力を生かしていきたいと思っており、同時に、同僚職間の連携が必要であると考えている」と考え、このたび、幼稚園の養護教諭同士の間ネットワークのひとつとして、「この「yoyoproject 幼稚園の養護教諭のホームページ」を2003年10月から開設しました。

掲示板(yoyoclub)では、「養護者との連携」や「子育て支援について」、「専門での健康観察」、「幼稚園での薬の取り扱い(処方)」について、「健康証について」、「保健室について」などの話題がでています。ぜひ掲示板なども活用していただき、気になる情報交換ができればいいと思います。幼稚園の養護教諭のみなさんの、幼児の健康教育に関わっていただける方々ともネットワークを広げていきたいと思います。ぜひ、どうぞよろしくお願いいたします。

このホームページは、平成15年度厚生科学研究費補助金研究班「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」主任研究者・山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学講座教授）分担研究者・長瀬賢長（福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座教授）から公的サポートを受けております。

幼稚園養護教諭と地域保健師の連携モデル開発に関する研究 ～入園後健診と3歳児健診を題材に～

山口智佳子	奈良教育大学教育学部附属幼稚園
小松原かおり	京都教育大学教育学部附属幼稚園
石原知恵	兵庫教育大学学校教育学部附属幼稚園
森川美保子	奈良県下市町保健センター
葉袋淳子	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
江寄和子	京都市立崇仁小学校
松浦賢長	福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

本研究班でおこなった、「幼稚園養護教諭における同職種間連携ニーズに関する調査」の結果、幼稚園養護教諭を対象とした研修会・研究会や情報交換の機会が望まれていることが明らかになった。今回、健やか親子21推進のもと、幼児期の健康支援を目的とした（他職種との）連携をはかるために、地域保健師との共同による研修会を開催し、連携モデルを開発するにあたっての条件等を考察することにした。結果：子どもと保護者に対する見方・アプローチの仕方・関わり方が、お互い異なることを認識しえた。学校保健（幼稚園）側は、客観的、専門的評価の点においては発達状況の把握や他の専門機関との連携体制が不十分であることが分かった。また、これからの他職種との連携において、まずは互いの職務を知る、という基本的な事項が必要不可欠であるということも認識した。この研修会において、連携への第一歩を踏み出したといえる。これからの連携を考えていく上での、学校保健（幼稚園）からみた幼児期健康支援連携を目的とした10か条をまとめた。このような新しい視点、ニーズにあった内容の研修会をおこなうことが重要であると考えられた。

I. はじめに

本研究班でおこなった、「幼稚園養護教諭における同職種間連携ニーズに関する調査」では、幼稚園養護教諭を対象とした研修会・研究会や情報交換の機会が望まれていることが明らかになった。現在の研修制度では幼稚園養護教諭のニーズにあった研修が行われていないのが現状のようであった。

そこで、健やか親子21推進のもと、幼児期の健康支援を目的とした（他職種との）連携をはかるために、地域保健師との共同による研修会を開催することにした。その上で、幼児期の健康支援を目的とした地域保健師と幼稚園養護教諭の連携モデルを構築するにあたっての条件等を考察することにした。

II. 方法

研修会のテーマは、「地域保健と幼稚園教育の連携にむけて」—3歳児健診と幼稚園の健康診

断—とした。本研究班研究協力者である幼稚園養護教諭と保健師が中心になって企画運営をおこなった。その2人の勤務する地域（奈良県）で研修会を開催することにした。

対象者は、奈良県内市町村の母子保健に携わっている保健師・看護師・栄養士・助産師等及び、近畿圏の幼稚園養護教諭や幼児の保健に関わる教員等とした。

事務局については、企画運営を中心におこなっている幼稚園養護教諭の幼稚園に設置した。保健所や保健センターへの案内を送付は、奈良県母子保健係を通じて周知した。養護教諭が配置されている幼稚園にも郵送した、FAXまたはメールで参加申し込みを受け付けた。定員は50人とした。ホームページ上でも、研修会の案内をアップした。

このような研修会の企画運営がわれわれにとっては初めての経験だということもあり、当日までに綿密な打ち合わせと準備をおこなった。

【参加者のグルーピング】